

パブリックスペースに関する フィールドワーク報告

—二子玉川におけるサイト・リノベーション—

杉浦 久子・角屋 ゆず

A Report of Field Works on Renovation of Public Spaces
—‘Site Renovation’ at Futakotamagawa, Setagaya-ku

Hisako SUGIURA and Yuzu KAKUYA

This paper reports on collaborative field works of Sugiura's laboratory on renovation of public spaces in 2004.

Our laboratory has carried out architectural studies and field works for joining human beings and space together. We aim at transforming dead spaces into living spaces with ‘installations’ which is a sort of contemporary art.

We show how, in a public wood of Futakotamagawa, we built frames and covered them with boughs and leaves to make a tunnel so that people could pass through it or just relax sitting alongside the path when out rambling. During 16 days of this tentative installation, 1,954 people visited it. The restoration of the site brought the wood back to life for a while.

■はじめに

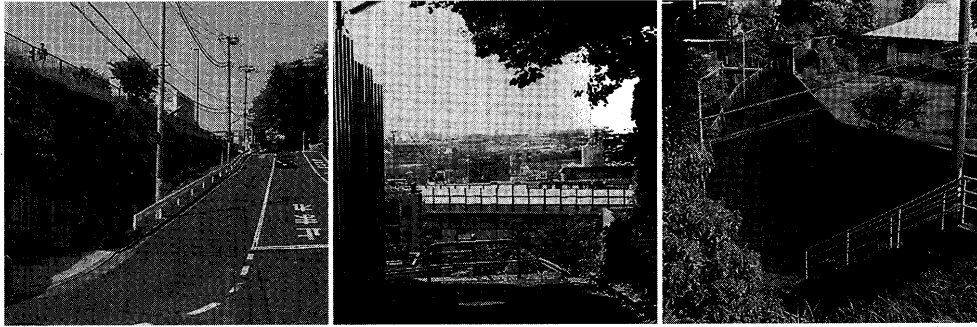
研究室では、建築の立場から人と環境、場所の関係をテーマに研究や設計活動、フィールドワークを行ってきた。本稿は2004年度に行った主なフィールドワーク、並びにこれらに関して発表を行ってきたものを「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告—二子玉川におけるサイト・リノベーション—」としてまとめ、報告するものである。

■フィールドワークの背景と経緯

私たちが日常、空間で生活しているときには、建築も町も、連続的に空間体験している。個別の建物のみならず、繋ぎの空間も面白くならないと町は活性化しないのではないかと、との思いからこのような活動に、およそ10年前から着手することとなった。スクラップ・アンド・ビルドの時代から、既にある

ストックを見直してゆく時代へと変移する中で、当たり前のものでありながらそこに存在している建築のみならず、様々な既存空間の質を再発見し、顕在化させ、新たな場をつくりだすことも、建築的命題であると考えている。また、既存のパブリックスペースや、場所の問題を考えることは、まちづくりとしての意味も持つかと思う。

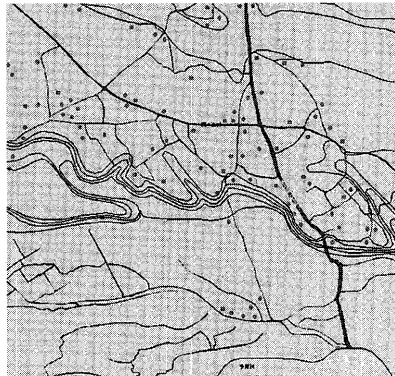
社会のインフラの大半が整えられた今日では、単に建てることのみならず、既存のものに加えることや差し引くこと、変更することや、積極的な意味において建てないことなど、場所に建築を建てるという行為そのものや、既にある場所の意味を見出し、建築物だけでなく人を含む空間全体を関係づけてゆくような空間環境をつくるための方法論が必要になってきていると考えられる。



【図1】斜面地における特徴

- (左写真) ①急な坂道・階段
- (中央写真) ②ビューポイント
- (右写真) ③行き止まり空間

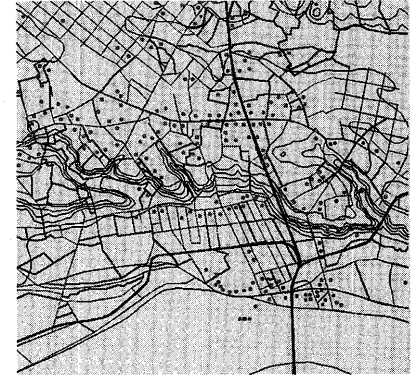
撮影：二子玉川にて



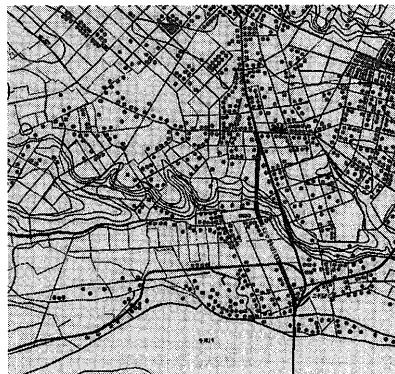
1881年 (M14)
道はまだ獣道である。
鉄道もなし。住宅は街道沿に多いが疎らである。



1929年 (S4)
川沿にグリット状道路ができる。
砦線開通。
主要道周辺に住宅増加。



1939年 (S14)
道はグリット状道路、北東・北西に増える。
鉄道変化なし。住宅は整備地に増える。



1955年 (S30)
旧大山大道・現環八交差点が整備される。
鉄道変化なし。
戦後、人口流入により住宅街化進む。



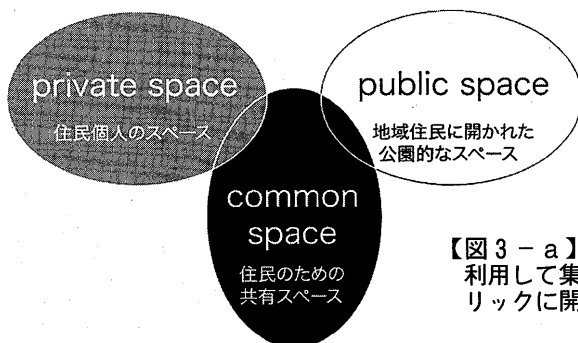
1996年 (H8)
環八・246号線・首都高が交差する。大井町・田園都市線。
崖線上、平地が住宅で埋め尽くされる。

凡例)
● …住宅5軒を示す

【参考地図】
 ■ 『世田谷古地図1881年(明治14)』
 ■ 『世田谷古地図1929年(昭和4)』
 ■ 『世田谷古地図1939年(昭和14)』
 ■ 『世田谷古地図1955年(昭和30)』
 ■ 『世田谷区土地利用現状図平成8年9月現在』
 以上、発行：世田谷区役所

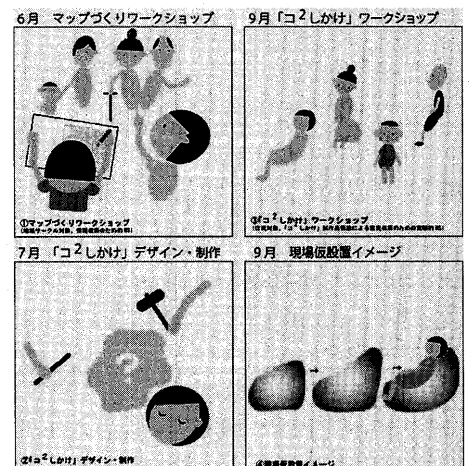
【図2】二子玉川地区の変遷

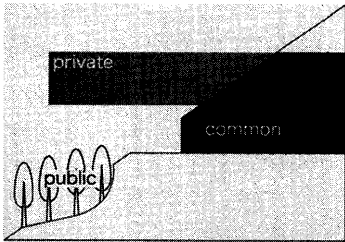
(地形・道・住宅)



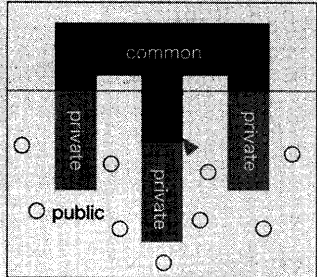
【図3-a】(左)斜面を利用して集合住宅をパブリックに開く

【図4】(右)「ココしかけ」プロジェクトの提案





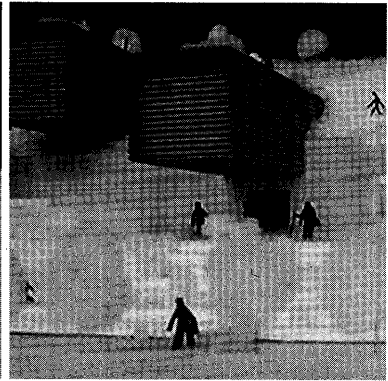
section



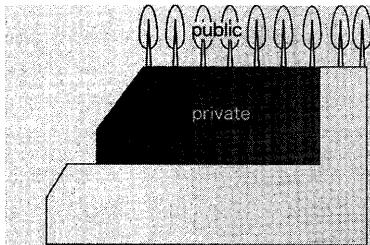
plan



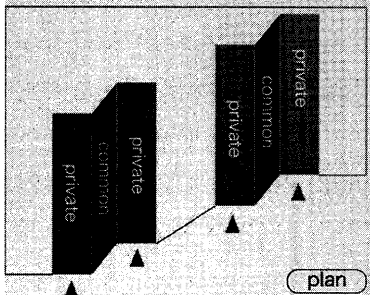
Project01: 出っ張り型



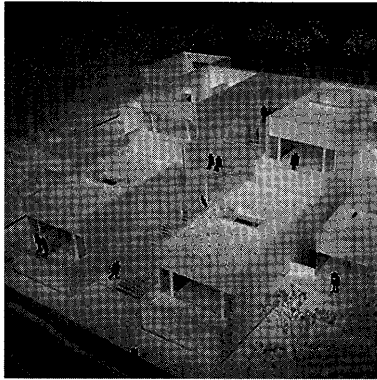
模型/伊藤尚子



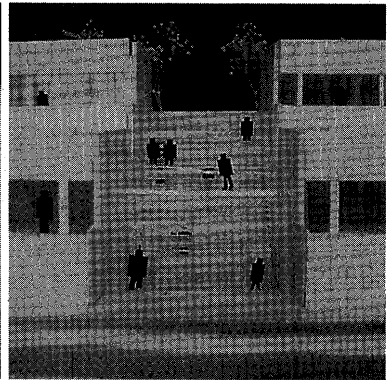
section



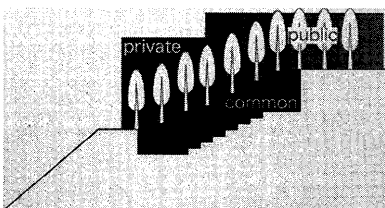
plan



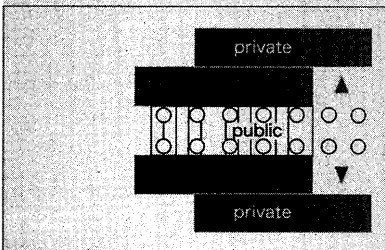
Project02: 引っ込み型



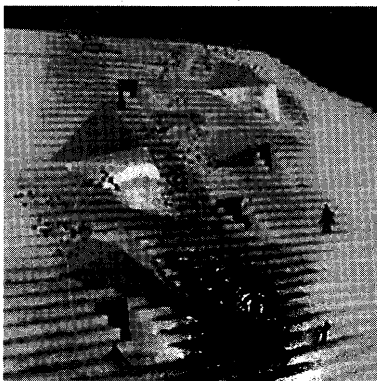
模型/田尻沙矢香



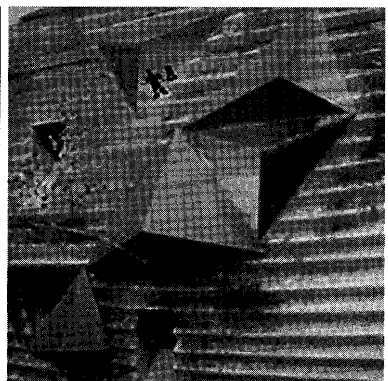
section



plan



Project03: 二層型



模型/下元香奈

【図3-b】斜面を利用して集合住宅をパブリックに開く

■パブリックスペースにおけるサイト・リノベーション

ここで言う「パブリックスペース」とは、「文字どおりの公共空間」と、「私有地であっても公共性が高いと考えられるスペース」を指す。ポテンシャルは高いが、あまり活用されていない場所を活性化させる方法として、インスタレーションというアートの手法を用い、地域コミュニケーションや、場をより良く使うことを目的としてプロジェクトを行ってきた。街に仮設空間を設置し「場」に「出来事」を起こすことで、サイトの持っている意味を顕在化させたり、変化させることを行ってきた。昨年度の報告注1)の中では、様々な場所で別々に行われてきた各プロジェクトを網羅的に整理、分析した結果、

【手法1】流れる・留まる (ステーション)

人が流れていってしまうのみの寂しい通路的空間に空間的な操作を加えることで、人が留まるステーションのような空間をつくる → 人が滞留することで賑わいが生まれる。

【手法2】囲い込む

滞留する空間、居場所をつくるために半透明的な材料で囲い込む → 居心地の良い安堵感が生まれる。

【手法3】意味の再構築

場所の持っていた本来の意味を顕在化させたり、更なる意味を付加、または変容させたりする。 → パブリックな場がセミプライベートな空間になったり、プライベートな場がセミパブリックに開かれたりする。

【手法4】居場所を皆でつくる

部外者の視点がかえって地域の問題や特性を顕在化できる。 → その場にある様々なストック(人、もの、空間、環境)を積極的に利用することにより、場所の特性が顕著となる空間をつくりだすことができる。

などの共通する手法のようなものを見出すことが出来た。さらに、今後の可能性と問題点についても

明らかになりつつある。特に2000・2001年度の世田谷アートタウンでの実践注2)、2002年度の千葉県おゆみ野、2003年度の新潟県十日町でのアートイベントを通じた実践注3)から、その有用性を確認することができた。

そこで、このような研究と実践活動をフィードバックしながらその過程を明記し、整理分析することで可能性と問題点を探り、パブリックスペースの有効利用に関する方法論のさらなる確立を目的に、2004年度は、街に仮設空間を設置し「場」に「出来事」を起こすフィールドワークを、世田谷区二子玉川にて行った。注4)

なお、サイトの地域資産を使いながら、既存空間の質を再発見、顕在化させ、新たな場を作り出すフィールドワークを、「サイト・リノベーション」と呼ぶこととする。

■学生提案発表会から「ココしかけ」プロジェクトへ

平成16年3月に世田谷区より学生提案発表会「世田谷区国分寺崖線を活かした都市づくり—学生からの提言」における研究発表依頼を杉浦研究室が受け、二子玉川地区の景観サーベイがスタートした。これは世田谷区が国分寺崖線の住宅整備を考えるにあたり、より広い市民の方々の参加と提案を求めるため区内の建築、環境系の大学の学生による提案を募集、発表を行ったものである。(平成16年5月21日於:世田谷区役所) 5大学、7研究室より提案発表、展示発表が行われた。注5)

その後、さらに研究室で独自に展開し、国分寺崖線のある二子玉川にて「サイト・リノベーション」を実践した。二子玉川におけるフィールドワークは、サイトに対する調査の結果を活かした現地制作を行い、研究と実践の両方の過程を通じて、体験的・実験的な方法論により進めた。

*事前調査(研究室)

・斜面地における特徴【図1】

平成16年3月に研究室のメンバーで国分寺崖線のある町、二子玉川地区を歩き、様々な特徴のある場所や気になった場所などについて写真撮影を行った。

それらを①急な坂道・階段、②ビューポイント、③行き止まり空間、の3つの特徴に分類した。

・二子玉川地区の変遷（地形・道・住宅）【図2】

二子玉川には地形学上、国分寺崖線と呼ばれる斜面があり、「世田谷の緑の生命線」として自然環境が多く残る。しかし、こうした地域資産も近年、開発により減少してきたことが感じられた。そこで、この地区の地形・道・住宅の変遷の過程を5世代の世田谷古地図を参照・分析し、その変遷をまとめた。結果、有機的な等高線や道のラインが人工的な直線状に変化したことや、そこに住宅や道が出来たことがわかる。僅かながら有機的ラインが残り、住宅の少ない場所が斜面緑地である。

・斜面を利用して集合住宅をパブリックに開く

【図3-a, b】

平成16年度前期の「設計製図Ⅱ-1」（杉浦担当）の課題の中で、二子玉川における集合住宅提案の課題として取り上げ、各学生一人一人が現地リサーチから導いた提案を、設計案として具現化させた。この中での代表的作品6案の模型を世田谷区より学生提案発表会「世田谷区国分寺崖線を活かした都市づくり—学生からの提言」注5)にて展示発表、さらにこの中の特徴的3案について研究室にて整理し直してまとめ、発表を行った。

また、集合住宅を、住民個人のスペース（プライベートスペース）、住民同士のための共有スペース（コモンスペース）、地域住民に開かれた公園的スペース（パブリックスペース）の3つの要素から構成されているものと位置づけ、敷地の一部を地域に開かれた公園スペース（パブリックスペース）とする提案を行った。斜面地の利点を活かして 01: 出っ張り型 02: 引っ込み型 03: 二層型の3タイプのバリエーションの可能性を提示した。

・「ココしかけ」プロジェクトの提案【図4】注4)

そして、大規模に手を入れなくてもすぐに実現可能性のある小さな個別のプロジェクトを住民参加で行う「ココしかけ」プロジェクトの提案を行った。

「ココしかけ」プロジェクトとは、「ココ（個々、此处）」の場所に空間を楽しめる「しかけ」を施すことで、地域の特性を活かし、その空間を五感で感

じることができる「佇める場」をつくりだすことを目的としたプロジェクトである。

*本調査（研究室+住民）

・ヒアリング調査（研究室+住民）

6月に、第1回ワークショップに参加した住民6名と、第2回ワークショップ（世田谷区鎌田児童館）でのヒアリングに参加した17名の住民（幼児を持つ母親）に、二子玉川地区の地図にお気に入りスポット、危険・大変・不満スポット、不思議なスポット、その他を記入してもらいコメントをいただいた。

・まち歩き調査（研究室+住民）

7月には、第3回ワークショップ時に、住民8名と研究室12名でヒアリング結果に基づいて地域を歩き、感想をまとめた。さらに第4回ワークショップ時に、新たな場所等、再度歩き確認した。

*調査の分析結果（研究室+住民）

・まち歩きマップ【図5】

本調査の結果を「まち歩きマップ」としてまとめた。ビューポイントは遠景の望める場所、お気に入りスポットは、緑道や広場等の佇める自然豊かな場所が多い。また、危険・大変・不満スポットは、狭くて交通量の多い道や視界が悪く暗い緑地、急な坂道/階段などであり、不思議なスポットは、地域独自の場所が多い。

*調査結果から実践へ

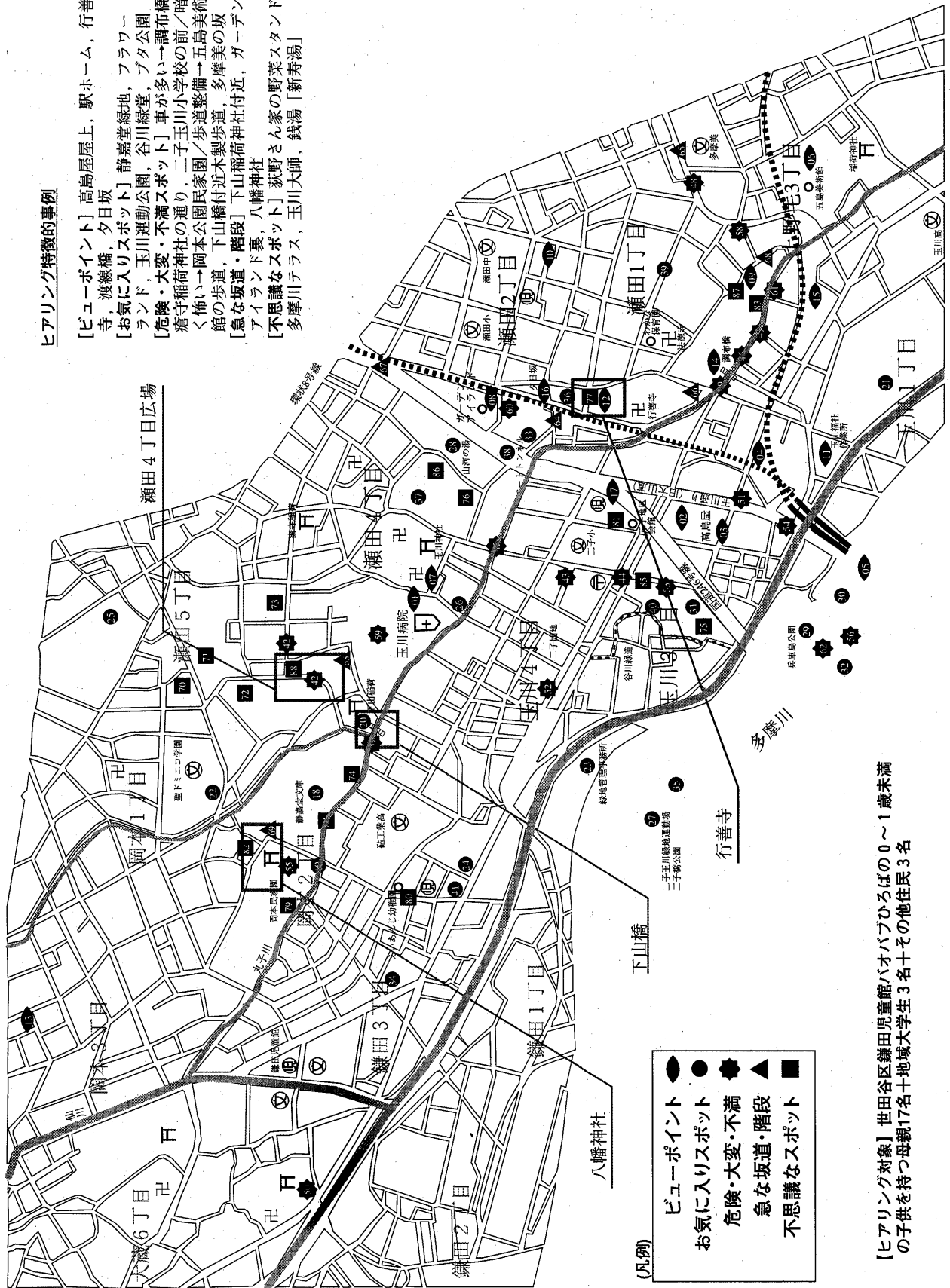
以上の結果から住民とともに、大規模なことを行わなくてもサイトの問題を解決し、より良い場所となる可能性を持つ場所として、瀬田4丁目広場前、下山橋、八幡神社、行善寺脇の4箇所の候補地を選定した。景観や場所を楽しむ佇める場所や、夜間照明が求められた場所である。

■「ココしかけ」プロジェクト in 新宿【写真1】注6)

上述の4箇所の候補地別に景観を楽しむための「ココしかけ」プロジェクトのアイデアを研究室内で話し合った。その過程で出てきた、景観を切り取るフレームに、腰掛けられるスペースを融合したデザインアイデアを実験として展開するため、「東京デザイナーズウィーク」に新宿バージョンと

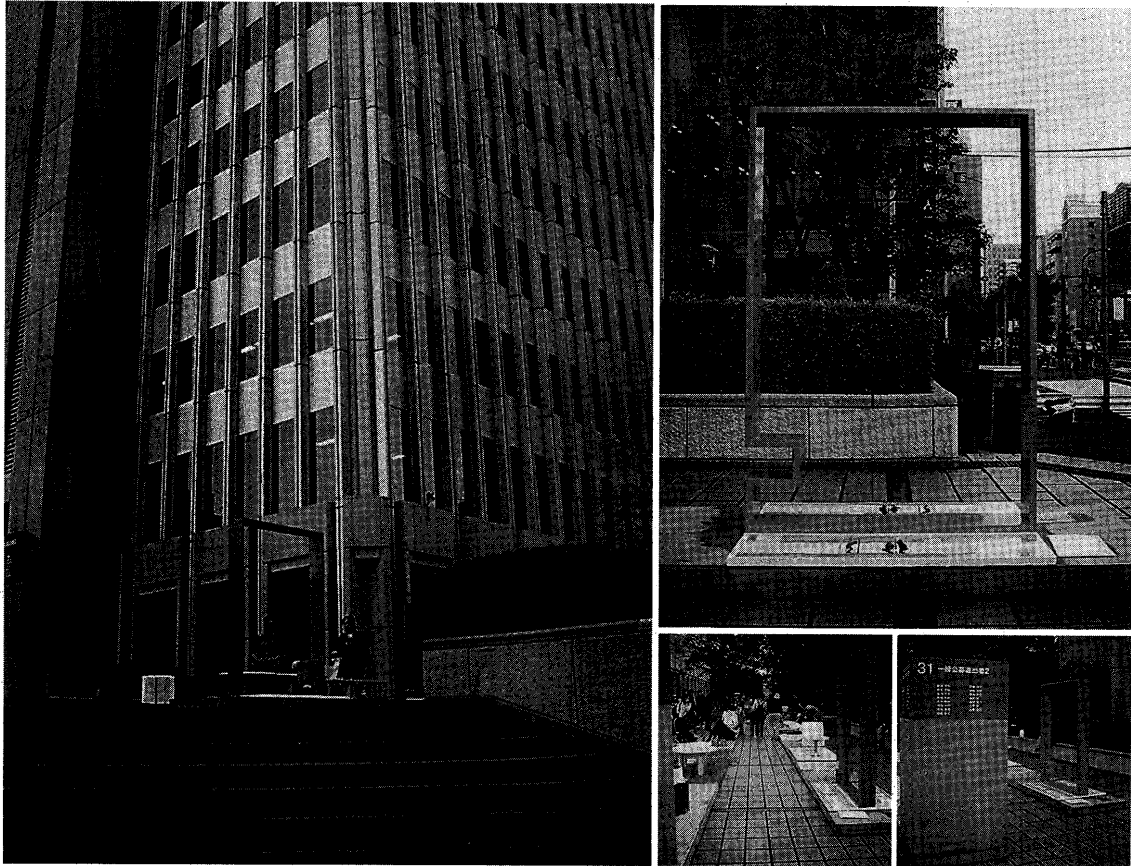
ヒアリング特徴的事例

- [ビューポイント] 高島屋屋上, 駅ホーム, 行善寺, 渡線橋, 夕日坂
- [お気に入りスポット] 静嘉堂緑地, フラワーランド, 玉川運動公園, 谷川緑地, フタ公園
- [危険・大変・不満] 車が多い→調布橋, 瘡守稲荷神社の通り, 二子玉川小学校の前/暗く怖い→岡本公園/歩道整備→五島美術館の歩道, 下山橋付近木製歩道, 多摩美の坂
- [急な坂道・階段] 下山稲荷神社付近, ガーデンアイランド裏, 八幡神社
- [不思議なスポット] 萩野さん家の野菜スタンド, 多摩川テラス, 玉川大師, 銭湯「新春湯」

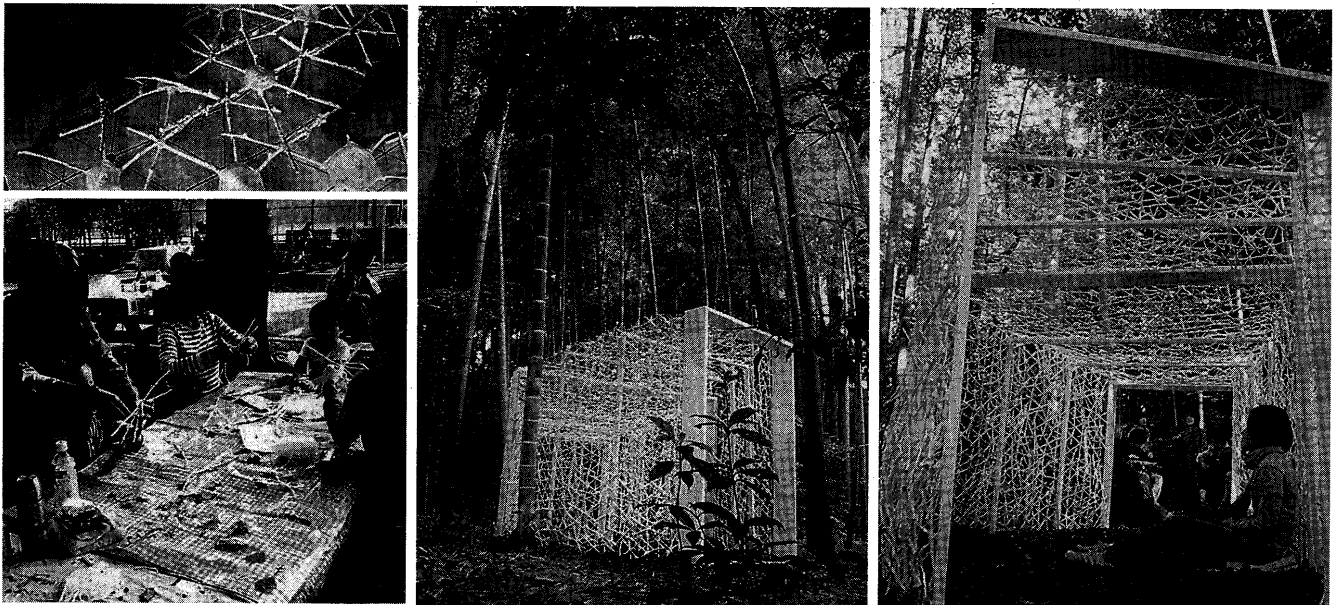


【ヒアリング対象】世田谷区鎌田原児童館バオバブひろるぼの0～1歳未満の子供を持つ母親17名十地域大学生3名十その他住民3名

【図5】まち歩きマップ



【写真1】「ココシかけ」プロジェクト in 新宿



【写真2】「ココシかけ」プロジェクト in 二子玉川

して応募した。結果、入選し実際に西新宿、野村ビル
の公開空地に展示作品として設置された。実際に
腰掛けてみる人も多く、ショッピングピンクのフ
レームが高層ビルのグレーな景観を切り取っていた。

■「ココしかけ」プロジェクト in 二子玉川の流れ 【写真2】、【図6】注4)

調査内容の結果を踏まえ、フィールドワークの実
践を中心に、その過程やプロジェクト全体の流れを
まとめた。既に2000・2001年度注2)、2002・2003年
度注3)の実践においてもサイト・リノベーション
の流れを整理してきた。これらの計画は住民他との
関係の中で合意形成されるため、不確定要素が多く
計画に対し予定調和的にはならない。実践活動が終
了して初めて筋道が見えてくるため、今後の比較、
検討のためにも、その流れを記録する必要がある。
また、実践の後に思考する方法論や、その可能性と
問題点を明らかにしていくのにも有効と考えている。
今回は特に、最終到達点が予め決定されていた訳で
はなかった。

そこで、主な出来事の内容や、特に研究室と地域
住民や許認可主体他の関係、場所の読み取り調査、
企画立案から制作までの過程を流れ図として提示す
る。

*事前調査(研究室) *本調査(研究室+住民)

3月に二子玉川サーベイ(事前調査)、5月に世田
谷国分寺崖線学生提案発表会注5)を研究室で先行
して行った。6月にヒアリング調査、7月にはまち
歩き調査を行い、まち歩きマップを完成させ、4箇
所の候補地を選定した。

*企画決定(研究室+住民)

8月には研究室で4箇所の候補地各々についての
デザイン案を企画した。次に、実現可能性などを考
慮し、9月の第5回ワークショップで住民との意見
交換の後、国分寺崖線の自然が残る場所であるが、
認知度が低く活用されていない瀬田4丁目広場が選
定された。その後、研究室でデザイン案の検討を行
い、10月の第6回ワークショップにて最終デザイン
案が決定した。そして、「ココしかけ」プロジェクト

ト注4)を行うにあたって、管理者である世田谷ト
ラスト協会に、一定期間使用の許可を得た。

*制作(研究室+住民)

サイトにある素材を使い研究室と住民で自力建設
した。森の風、光、音を佇んで楽しみ、閉鎖されて
いた門(期間中のみ開放)からの人の流れを促す形
態をデザインした。また、制作の簡便性、分業化を
配慮した。10月に材料調達(廃材の小枝)の許可を
世田谷区より得、研究室でパーツ制作を始めた。11
月には、パーツ制作ワークショップを地元カフェや
保育園にて行なった。

*現地制作・展示(研究室+住民)

瀬田4丁目広場での現地制作・展示を、せたがや
トラストウィーク(11/9~14)注7)に重ねつつ延
長開催(11/11~26)した。開期中に徐々に設営し、
ウィーク最終日に完成した。また、制作現場からの
報告やそのプロセスを秋桜祭にて展示した。注8)

開放された門から散歩の人や家族連れが多く立ち
止まり佇んだ。地形を活かして森のミニコンサート
も行い「ココしかけ」はコンサート会場の入口空間
となった。搬出後、住民とともに反省会を行った。

・「ココしかけ」プロジェクトのひろがり【図7】

上述のようなプロセスの中で人々の関係が広がっ
ていった。その人的ひろがりを図示した。研究室か
らの呼びかけに対し、地域住民の人々を核として、
その人々の地域ネットワークからトラスト協会や保
育園、地域カフェ、世田谷TVへと広がっていっ
たことがわかる。

■「ココしかけ」プロジェクトの概要まとめ【図8】

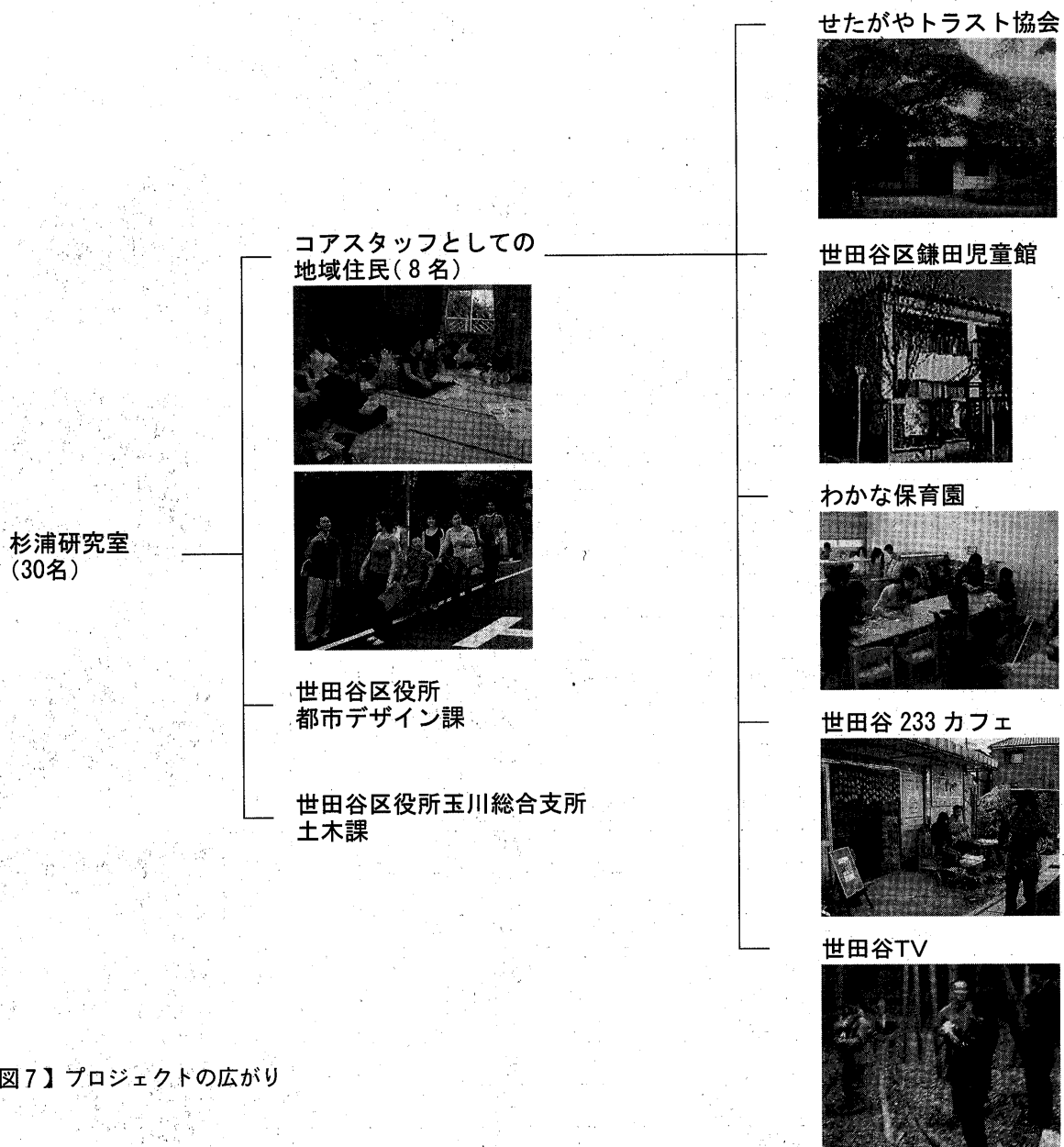
「ココ(個々・此处)」の場所に空間を楽しめる
「しかけ」を施す計画を考え、地域特性を活かしそ
の空間を五感で感じられる「佇める場」を提案した。

二子玉川地区、国分寺崖線では都市化が進み、魅
力的な景観が減りつつあるが、計画地の瀬田4丁目
広場は、この緑と自然地形が残る貴重な場所である。
ここの雰田気を読み取り、空気や風・光・音を楽し
み、皆が集える空間を住民とともに制作した。材料
は世田谷区の資材を活用した。廃材である下枝を、

「ココしかけ」プロジェクト in 二子玉川 (2004 11/11-26)

				主なできごと										研究 室	地 域 住 民	区 役 所	ト ラ ス ト	児 童 館	保 育 園	プ レ ス	業 社	そ の 他	写真 (調査～完成)		
事前調査	3月	中旬	二子玉川サーベイ (傾斜の特徴)										●												
	4月		学生提案準備										●												
	5月	21日	世田谷区国分寺崖線学生提案発表会										●	●											
	6月	12日	街づくりファンド企画提案 (住民呼びかけ)										●												
本 調 査		20日	第1回WS (住民と顔合わせ) 二子玉川地区会館										●	●											
		29日	第2回WS (ヒアリング実施) 鎌田児童館										●	●		●									
	7月	1日	ヒアリング分析・まとめ										●												
		4日	第3回WS (住民とのまち歩き) 二子玉川周辺										●	●											
		9日	まち歩きマップ作成										●												
		18日	第4回WS (マップ完成・まち歩き) 二子玉川周辺										●	●											
		下旬	実施場所を4箇所に絞る										●	●											
	8月	月上旬	実施予定地デザイン案を検討										●												
		9月	12日	第5回WS (実施場所相談) 二子玉川地区会館										●	●										
			中旬	実施場所許可願等										●	●	●	●								
		下旬	最終デザインエスキース										●												
10月	10日	第6回WS (最終案合意形成) 二子玉川地区会館										●	●												
現 場 制 作		17日	現場測量										●												
		18日	フレーム型枠づくり										●												
		18日	材料調達 (廃材の小枝)・公園管理課へ許可願										●	●											
		19日	工芸店へ実施作品発注										●								●				
		下旬	広報 (各社へFAX・TEL)										●							●					
	11月	1日	DM発注										●								●				
		2日	研究室インタビュー (地域CATV)										●							●					
		月上旬	枝塗装枝パーツ住民配布										●	●											
	5日	DM発送										●													
	7日	第7回WS (パーツづくり) カフェ「世田谷233」										●	●								●				
	9日	第8回WS (パーツづくり) 保育園WS										●	●						●						
展 示		11日	現場施工開始 (現場展示オープン)										●	●	●										
		12日	建築系雑誌取材										●								●				
		13日	学内展示オープン (プロセス写真展示)										●												
		13日	環境系雑誌・地域CATV取材										●								●				
		14日	学内展示オープン										●												
		22日	森のボサノバ・ミニコンサート										●		●	●							●		
		26日	完全撤出										●			●									
12月	2日	反省会										●	●											完 成	

【図6】 「ココしかけ」プロジェクト in 二子玉川の流れ



【図7】プロジェクトの広がり

主催	昭和女子大学杉浦久子研究室
協力	世田谷区役所・(財)せたがやトラスト協会・鎌田児童館・わかかな保育園・地域住民の方々
コンセプト	世田谷で有数の景観を誇る国分寺崖線では都市化が進み、魅力的な景観が減りつつある。この地域は緑と斜面が多く、私達に素晴らしい景観をもたらす貴重な地域資産である。会場となる瀬田4丁目広場は鬱蒼と樹々が生き茂り、都会の中でも国分寺崖線の自然が残っている。この場所を読み取り、ここの素材(枝・木の葉)を用いて、地域の人が空気や風・光・音を楽しみつつ集える空間をつくる。
場所性	魅力点: 都会にありつつ自然(森・地形の豊かさ)に溢れている。/問題点: 駅からやや離れた住宅地の中。トラスト協会が保存する旧小坂邸の斜面地にある竹藪。入り口の門が2つあるが、片方は閉じられ人の流れが起こらず、利用者も少ない。知名度も低い。また、夏から秋にかけて蚊の大量発生が問題。
来場者特徴	同時開催せたがやトラストウィーク(自然と歴史的環境を考える1週間)来場者を含む。地域住民が多く、お年寄りの方がよく見られた。子供は、幼児から小学生辺りまで。高校生~成人はあまり見られない。[来場者数: 11日~14日1,954人]
来場者感想	十分に生かされていない場所の新しい使い方の可能性を感じた。/小さくシンプルながらも「しかけ」は建築というものの概念を十分楽しめるものになった。/展示したものはその後どうなるのかなあと気になっている。/トラストウィークの間だけでは短い。

【図8】プロジェクト概要のまとめ

規則的に毛糸や針金などでジョイントしたパネルを大量に制作し、現地で組み立てを行った。フォルムは、竹林の中で自然に竹を避けて残された場所に、白い小枝のレースのトンネルのような空間とし、門からの散策路のアプローチとして機能し、かつ自然景観を活かして行く、森のコンサート会場のエントランス空間となるような位置に配した。立っている人が自然に森に座れるように奥になるほど高さを低くしていった。

*プロジェクトの評価及び結果

知られていない地域資産を、住民らに広く知らせることが出来たと考えている。また、十分に活用されていなかった場所の、新しい使い方の可能性を示せたかと思う。とくに、地域住民の方々から指摘されていた問題でもあった、閉鎖されていた崖下の門を、トラストウィーク中に開放した結果、「ココしかけ」を通して、崖上の正門への流れが出来、散策や遊びに来る人が増えた。また、地域住民からの紹介もあり、場所の使用許可を得ることが、問題なく運んだ。

*プロジェクトの問題点

11/22開催のコンサートを含んで、このプロジェクトを11/26まで延長したが、短期間の許可のため設置期間が短かった。散策に来ていた住民の方々からは、いつも閉鎖されている門を開放し、このまま散策路として機能させてほしいといった要望が強かったが、管理上の問題からこの門もイベント終了後閉鎖されてしまい、可能性の提示は充分出来たが、散策路は一過性のもので終了したことが、残念であった。また、廃材の利用とはいえ、撤収後、廃棄しなくてはならなかったなどの点があげられる。

*まとめと今後の可能性

今回のプロジェクトは、何かのイベントに参加することが予め決まっていた進められたものではなく、研究室独自でスタートし、様々な偶然的展開によって実現したものである。調査、企画の段階から地域住民の方々と連携してプロジェクトを進めた結果、私たちだけでは得られない地域ネットワークに支え

られ、計画が発展的に進行していった。このような状況において、サイト・リノベーションは、様々な他者との関わりの中で創発的に行われてゆくため、「緩やかにして強い」デザインがより必要になってくると考えられる。

注1)『学苑』平成16年11月号No.769号 pp.6-21「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告—居場所をつくる サイト・リノベーション」(杉浦久子・木村映理子)

<http://www.swu.ac.jp/prof/sugiura>

注2)「パブリックスペースの有効利用に関する研究(その1)世田谷アートタウンにおける実践—インスタレーションによるまちづくり—」(杉浦久子・河野ひろみ)2002年度学術講演梗概集 F1 pp.917-918

注3)「パブリックスペースの有効利用に関する研究(その2)おゆみ野、十日町でのアートイベントにおける実践—互律するまちづくり—」(杉浦久子・木村映理子)2004年度学術講演梗概集 F1 pp.771-772

注4)「ココしかけプロジェクト in 二子玉川」…「ここ」(個々、此处)の場所に空間を楽しめる「しかけ」を施す計画。『新建築住宅特集』2005年1月号 p.12, 『ソトコト』2005年2月号 Escape Route p.16 掲載

注5)「世田谷区国分寺崖線を活かした都市づくり—学生からの提言」(平成16年5月21日:於世田谷区役所)・参加大学、研究室(国土館大学建築デザイン工学科 伊藤研究室, 国広研究室(M1グループ, 4年グループ), 武蔵工業大学建築学科 勝又研究室, 東京農業大学造園科学科都市緑地計画学研究室, ランドスケープデザイン研究室, 多摩美術大学コミュニケーションデザイン専攻 堀内研究室, 昭和女子大学生生活環境学科 杉浦研究室)

・杉浦研究室発表及び展示資料(指導:杉浦久子, 代表:木村映理子, 田中悠希, 角屋ゆず, 他杉浦研究室関係学生), 発表及び展示模型(伊藤尚子, 田尻沙矢香, 下元香奈), 展示模型(須川佳美, 田村美樹, 須加沙織)(以上「設計製図Ⅱ-1」課題履修者)

注6)「東京デザイナーズ・ウィーク」

NPO 法人東京デザイナーズ・ウィークが主催、東京、京都、大阪といった都市で実際に展開される大きなイベント週間。2004年度は19年目になる。「生活の中のデザイン」のもとに関わる多くの企業・デザイナー・学校が業界、業種の枠を超えて参加。東京においては2004年10月7日から10月11日に青山、代官山、新宿、お台場など実際の街中で様々なイベントが開催された。杉浦研究室では西新宿で展開された

学生作品「ストリートファニチャー国際大会」に応募，入選しこの会期中に展示された。

注7) 財団法人せたがやトラスト協会・世田谷区主催，
「自然と歴史的環境を考える1週間」(11/9～14，
於：瀬田4丁目広場ほか)

注8) 「秋桜祭」2004年度(11月13日・14日：於大学1号館6
階 6L36)

(すぎうら ひさこ 生活環境学科)

(かくや ゆず 生活機構研究科生活科学研究専攻生)